

図書室だより

vol.209

中央大学高校図書室

ビブリオバトルって何？

皆さん、「ビブリオバトル」を知っていますか？

面白い!と思ったおすすめの本を持ち寄り、1人5分間の持ち時間を使って本を紹介します。発表の後に2分程度の質疑応答を行います。すべての発表が終わった後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準にして、1人1票で参加者全員が相互投票して「チャンプ本」を決めます。



後楽祭では図書委員会がイベント型のビブリオバトルを行いました

《紹介された本》 チャンプ本以下は順不同です



『いけない』

道尾秀介 著 文春文庫 (1A T.M)

『人はどこで人生を間違えるのか』

加藤諦三 著 幻冬舎新書 (2B M.Y)

『誰が勇者を殺したか』

駄犬 著 角川スニーカー文庫 (2B F.K)

『君に届け』

椎名軽穂 著 集英社 (3A S.H)

コミックから小説、ライトノベル、論説本とバラエティに富んだラインナップ!
これこそビブリオバトルの醍醐味です♪

1年生から3年生まで4名のバトラーが参戦!観戦者も質問で参加しました。

本について淡々と語り、質問に答える。バトルとはいえ地味〜で静かな戦いですが、参加してみると意外や意外、面白いですよ!

☆図書委員が聞く あの先生のこの一冊☆

ICのF.Mが聞いた 仲森教頭先生(地歴科)のおすすめの本!

『山月記』中島敦 著 新潮文庫 B913-ナ

私が話を伺ったのは、我らが中央大学高校の教頭を務めている仲森先生です!普段の明るく気さくな印象とは違い、真面目に私のことを気遣ってくださながらインタビューに答えてくれました。そんな先生のお勧め本は、中島敦の「山月記」。1942年に発表された短編小説です。ストーリーだけではなく文章のリズムが魅力だと仲森先生は語ります。漢字が多く、若い世代には親しみにくい一方で、声に出すことで文章の良さがわかるそうです。この本が日常生活に活かした経験がありますかと尋ねると、「人生は何事をも為さぬには余りに長い、何事かを為すには余りに短い」という言葉を教えてくださいました。山月記の中にある言葉で、先生ご自身が50代になった時にこの言葉が身に染みたそうです。中島敦は若くして亡くなったのにも関わらず、このような言葉を残したことに感銘を覚えたのだとか。「若い時に一度読んで、歳をとって読むとまた感じ方が変わる本を見つけて欲しい」そんな私たちへのメッセージでインタビューは終わりました。

私はまだ高校一年生という比較的若い年齢層にいたので、真の意味で仲森先生の言葉を理解することはできませんでしたが、私の人生のバイブルとなるような本を探したいと感じました。

図書委員会のもう一つの企画『本の紹介動画』

図書室で上映しました！

動画を見て気になった本、読みたくなった本に投票してもらいました！ ★印がついているのは得票数が多かった作品です

★『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』

汐見夏衛 著 スターツ出版文庫

2B T.H

『アリス殺し』

小林泰三 著 創元推理文庫

1B I.A

★『美女と野獣(実写版)ディズニーアニメ小説版』

エリザベス・ルトニック 著 偕成社

2D H.K

『コインロッカー・ベイビーズ』

村上龍 著 講談社文庫

2C H.Y

『試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。』

尾形真理子 著 幻冬舎文庫

1C M.F

『か「」く「」し「」ご「」と』

住野よる 著 新潮文庫

1B K.N

『掟上今日子の備忘録』

西尾維新 著 講談社文庫

3A H.S

『この素晴らしい世界に祝福を!』

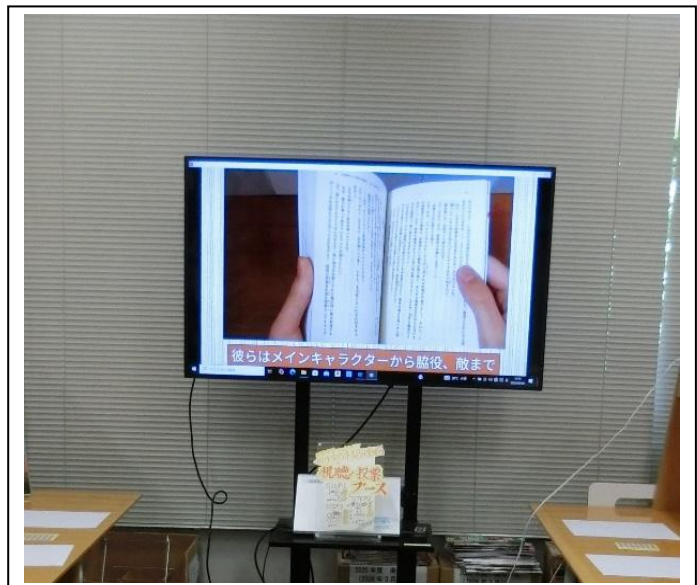
暁なつめ 著 角川スニーカー文庫

2C A.Y

『精霊の守り人』

上橋菜穂子 著 新潮文庫

2C S.S



今年は図書室内で大きなモニター一面に映し出しました。
1 作品 30 秒～1 分と短いので見やすいものになっています。
後楽祭当日、見れなかった!という人、見てみたい!と思った人は、
司書までお声がけください。

図書室にある本もあります。読みたくなったら
ぜひ手に取ってみてください!!